



農作業メモ

小麦の今後の管理・4つの対策

平成28年産の小麦は、昨年11月の天候不順により、は種作業が2週間以上遅れました。これからの麦踏みや追肥等の栽培管理が小麦の収量・品質に大きく影響してきます。

必ず次の対策を実施しましょう。

対策1 排水溝と排水口の設置

茎立ち期や登熟期の湿害は、収量に大きく影響を及ぼします。まだ排水用の溝を作っていないほ場では、溝あげロータリー等を使って、ほ場の周囲及びほ場内に5〜10m間隔に溝を掘り、排水口につなぐようにしましょう(図)。

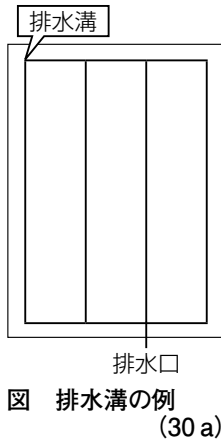


図 排水溝の例 (30a)

対策2 追肥の実施

「さとのそら」の栽培ポイントは、「農

林61号」に比べ、追肥を増やすことです。追肥の方法は、①普通肥料を2回に分けて追肥する方法と、②緩効性肥料を利用し、追肥を1回に省力する方法の2通りがあります。

今後、暖冬で降雨が多い場合は、基肥の流亡が懸念されます。適期に追肥を実施しましょう。

①2回に分けて追肥する方法

【実施時期】
1回目：3月上旬
2回目：3月末〜4月上旬
【追肥量】：表1の施用量

表1 2回追肥の1回当たり施用量

肥料銘柄例	施用量 (kg/10a)
NK化成C6号	12×2回
硫安	10×2回
けやき化成	14×2回
みのり特号	14×2回

表2 1回追肥の施用量

肥料銘柄例	施用量 (kg/10a)
さとのそら 追肥専用 536 (石灰窒素 4.5%入)	20

②1回で追肥する方法

【実施時期】：3月上旬
【追肥量】：表2の施用量

対策3 麦踏みの実施

麦踏みは、根張りを良くし、耐倒伏性の向上や凍霜害防止等に効果があります。

麦踏みは、麦の2葉期を過ぎたら、年内に1回します。その後、茎立ち(2月下旬)前までに、2週間程度の間隔をあけ、最低2回必ず実施しましょう。

対策4 雑草防除

昨年11月は、雨天が続いたため、除草剤の散布時期を逃してしまったり、ほ場が多いと思います。ほ場ごとの優占雑草や小麦の生育ステージを早め確認し、生育期処理の除草剤を使い、遅れずに雑草を防除しましょう。(表3)

表3 小麦の生育時の除草剤処理

農薬名	使用量/10a	使用時期	使用回数	適用雑草
ゴーゴーサン乳剤	300〜500mℓ	は種後(雑草発生前)〜小麦2葉期(イネ科雑草1葉期)まで	1回	1年生雑草
アクチノール乳剤	100〜200mℓ	穂ばらみ期(雑草生育初期)まで(雑草茎葉散布)	2回以内	1年生広葉雑草
ボクサー	400〜500mℓ	は種後〜小麦4葉期(雑草発生前〜雑草発生始期)まで(全面土壌・雑草茎葉散布)	2回以内	1年生雑草
エコパートフロアブル	50〜100mℓ	節間伸長開始期まで	2回以内	1年生広葉雑草2〜4葉期 ヤエムグラ2〜6節期
ハーモニー75DF水和剤	5〜10g	は種後〜節間伸長前(全面土壌散布)	1回	1年生広葉雑草 スズメノテッポウ5葉期

記載農薬は平成27年12月1日現在の登録状況に基づいています。